

昭和35年に制定された本校の新校歌（山本正作詞・海鋒義美作曲）の歌詞には、1番から3番のいずれにも「三葉の友」という言葉が使われています。そして、この「三葉」は本校らしさを表すシンボルとして組織や会、行事などの名称をはじめ、「みつばのめあて」のような取組の表題など様々なところに用いられています。しかし、この「三葉」が何という草木の葉なのか、どのような由来があるのかについては、これまでのところ、

校歌 (昭和三十五年制定)

一、山脈遠く 空青く
海鋒義 正作詞
風香る地を 學舎に
みのに豊かな 大崎の
もえる若草 すこやかに

二、廣大大地に 根を張って
三葉の友に 光あり
天に伸びゆく 三本木
学びの道の 行き帰り
手をとりあつて 清らかに

三、館の山辺の 春秋の
三葉の友の 夢はるか
幸ゆかたなる 山や川
鳴瀬の流れ 絶えまなく
力たわまぬ いそしみに



みつば児童会の歌（昭和二十六年制定）
伊東あや子 作詞・作曲

一 いまは みつば児童会
やがてごらんよ わたしたち
ぐんとぐんと根をはり 黒土に
大きくならうよ 三本木

二 いまは みつば児童会
やがてごらんよ ぼくたちは
ぐんとぐんと伸びるぞ 青空に
大きくならうよ 三本木

三 いまは みつば児童会
やがてごらんよ みんなして
ぐんとぐんと手を取り 輪になつて
大きくならうよ 三本木

三本木寺常高寺小学校校歌
 (作詞は土井晩翠言われるが、
 作曲君 制作者日不明)
 ああ 大崎の 大耕土
 その一望の御殿森
 あやに畏き大君の
 眺め給いし古えよ
 時は移りて日を追いて
 栄えいや増す三本木
 町の未来に尽くすべく
 吾が小学校の門ひらく
 門に朝夕 往きかよい
 山と水との美わしき
 里に文化の種をまく
 望みゆたけき 若き子よ
 里の美風を育つべく
 心と身とを 練りきたえ
 先に進める よき人の
 後にならう ああ奮え

戦後、進駐軍と共に入ってきたデモクラシーによって、わが国のあらゆる価値観は180度転換しましたが、教育も例外ではありませんで

した。小学校においても民主主義を体験的に学ぶ場として、学級会や児童会がつくられ、「いろいろな問題を討議し解決するために児童全体が積極的に参加する（昭和26年改訂の学習指導要領より一部抜粋）」教育活動が展開されるようになっていたのです。本校でも、当時本校教諭であった伊東あや子先生※4の作詞作曲により「みつば児童会の歌」がつくられていたことを考えれば、児童会をはじめとした民主主義の学習が盛んに行なわれていたと思われます。そして、“みつば”は、新しい児童の姿や新しい教育活動を表すシンボルとして定着し、校歌にも取り入れられるようになったのでしょう。



開校150周年を記念して作成した、三本木小学校・みつば児童会のキャラクター「みつバーン」

このたび開校150周年を記念して作成した三本木小学校・みつば児童会のキャラクターは、明らかにクローバー（シロツメクサ）をイメージしたものになっています※5。令和の子供たちにとっての“みつば”は、クローバーの葉です。そして、そこに込められた学校の願いは、知・徳・体が調和した人格形成であり、互いに信頼し合い、協力しながら粘り強く頑張る児童の育成なのです。

大木になることを目指す若木の葉から協調の根を張り調和の葉を茂らせる野草へと、“みつば”の形と意味は、時代と共に変わってきました。しかし、そこには、その時代に生きた教員や保護者、そして三本木に生きる人々の大きな期待や希望、願いが込められていたことは確かだと思います。

三葉の友に栄えあれ！

（文責 高橋）

（註）

- ※1 三本木という地名の成り立ちについては諸説あるが、「三株駅(さんしゅえき)」とも呼ばれる交通の要路であったこと、そしてそのランドマークでもあった三本の大木に由来することは共通している。三本木町誌には、古くから三株の榎があったことから、伊達綱村公が命名したという説や三本の榎木が鳴瀬川の岸にあったという説、山神の社にそねの木が三本あったという説が記されている。
- ※2 括弧内は、筆者の独自解釈による加筆。
- ※3 当時在籍していた卒業生の証言より。
- ※4 伊東あや子先生は、大正14年（1925年）から昭和34年（1959年）（削除）までの34年間、本校一筋にご勤務なされた。当時在籍していた卒業生によれば、現在70歳代以上の三本木住民にとっては、「知らなければモグリ」と言われる存在とのこと。
- ※5 全児童を対象としたキャラクター原画コンテストで最優秀賞や優秀賞に選出された作品をもとに作成。